

講義コード	513130402	
講義名	生活 DEF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科（短大）	
講義開講時期	後期	
基準単位数		
時間	0.00	
代表曜日	木曜日	
代表時限	3時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
専任教員	青木 章彦	指定なし
専任教員	教務委員会（短大）	指定なし

授業の概要

授業の概要

前期の「環境（指導法）」の学習基礎に、幼小連携・保小連携を中心に、実践をとおして「生活科」を理解する。また、身近な素材を使った遊びの実践をする。

授業の方法

①プレゼンテーションの方法

授業では、板書と配布印刷物、ICTを活用する。また、DVD教材なども見る。

②授業形態

講義形式で説明する。

幼児向けの遊びを実際に体験し、体験を通して、「生活科」の枠組みを理解する。また、教育の方法や技術を習得する。

「作短日記」の発表を行う。

③アクティブラーニング

作短日記（毎週提出するミニレポート）、作短日記の発表（プレゼンテーション）、各種の遊び（体験学習）、グループワークなどを行う。

「動物ふれあい」の特別授業を行う。

理解度確認のために、ICTを用いて確認テストを行う。

④課題に対するフィードバックの方法

体験学習については、体験の後に解説を行う。

確認テストの後に、解答の解説を行う。

プレゼンテーションには、ルーブリック評価を行う。

レポート課題には、ルーブリック評価を行う。

授業の到達目標及びテーマ

子どもたちの自然離れ、日常の基本的な生活習慣や技能の低下という現実をふまえて、小学校低学年に導入された「生活科」だが、小学校教育の中に遊びの視点が盛り込まれたのは画期的なことである。また、幼稚園や保育所での子どもたちの生活の主要な部分は遊びである。また、新教育要領では幼小連携が重要視されており、幼（保）小連携は今後さらに深まると考えられ

る。
 小学校低学年の「生活科」には、幼稚園教育要領の領域「環境」との接点が見いだされるはずである。本講義では、幼児教育の視点から「生活科」をとらえ直してみよう。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。時に①、②、③を重視する。

この授業は、幼児教育科のディプロマ・ポリシーの「2.幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している。」、「3.情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけている。」、「4.幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している。」、「8.地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる。」を達成するための科目である。

授業計画表

回	担当教員
第1回	ガイダンス「生活科」と領域「環境」、秋を感じよう（虫の声）
第2回	実技1 ススキのミミズク
第3回	レポート（秋を見つけよう）の説明 落ち葉の説明 雑木林の説明
第4回	実技2 ドングリで遊ぶ ドングリ笛
第5回	「生活」と領域「環境」の接点
第6回	第1章 生活科の経緯
第7回	第2章 生活科の目標
第8回	第3章 生活科の内容
第9回	第4章 指導計画の作成等・第5章 生活科の学習指導
第10回	幼小連携・保小連携について
第11回	実技3 落ち葉のステンドグラス
第12回	実技4 生活科マップの作成
第13回	子どもの生活環境と子ども向けの遊びの素材さがし1
第14回	実技5 手作りおもちゃ
第15回	動物とのふれあい授業（栃木県獣医師会による特別授業）

授業時間外の学修

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませしておくこと（所要時間90分）。また、同時に、次回の授業範囲を伝えるので、事前課題を学習すること（所要時間90分）。

毎回、作短日記（ミニレポート）を、Teamsで提出すること。

なお、夏休み中に「環境（指導法）」を復習しておくことが望ましい。

実務経験の有無

ディプロマポリシーとの関連

① 幼児教育者観	② 知識・技能	③ 実践力と実務能力	④ 人間性と協調性
◎	◎	◎	○

ルーブリック

--	--	--	--

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
理解度	授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な学修が行えていると認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、自主的な学修も少し行えていると認められる	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている
課題解決能力	他からの支援を受けずに独自の能力で課題を解くことができるとともに、解法が定まらない他者に的確なアドバイスができる	基本的に他からの支援を受けずに独自の能力で課題を解くことができる	参考資料を参考にしたり他からの支援を少し受けながら自身の能力で課題を解くことができる	参考資料を参考にしたり他からの支援を受けたとしてもなかなか自身の能力で課題を解くことが難しいので、できるだけ一緒に課題解決ができるよう支援している
調査する力 (予習も含む)	自ら進んで予習範囲を越えて調べるとともに、それを他者に説明することができる	定められた予習範囲について自分の力で調べることができる	定められた予習範囲について調べてはいるが、その理解にはあいまいな点が多く、不十分な部分がある	定められた予習範囲について調べられない。もしくは内容が不十分である
レポート力 (復習も含む)	テーマについて、授業で紹介した方法、もしくはそれに類する独自の手法を使った分析が十分になされている	テーマについて、授業で紹介した方法で分析が十分になされている	テーマについて、授業で紹介した方法で分析がなされている	テーマについての分析がなされていない

成績評価法 (表形式)

	評価基準	備考
定期試験	40%	期末試験で、授業内容全般の理解度を評価する。
小テスト等	10%	小テストやミニレポートを評価する。
成果発表	10%	「作短日記」等の発表を評価する。
授業への貢献度		
レポート	40%	レポートで、授業内容の習得状況を評価する。
その他		

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題 (レポート等) について	模擬授業、プレゼン、発言等について
その都度解説、講評する	その都度解説、講評する	その都度解説、講評する

ICTを活用した双方向型授業の内容

クリッカー、アンケート、小テスト等

ビデオ会議システム
チャット
掲示板の活用
メール等の活用

アクティブラーニングの割合

総授業時間数の30～60%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
グループワークのディスカッションやディベート（議論の場と時間） プレゼンテーション 小テストや授業内レポートの活用 調べ学習・調査の活用	実験観察・実習 フィールドワーク	授業前レポート（予習） 授業後レポート

教科書

『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 生活編』 東洋館出版社 ¥144

参考書

『小さな自然観察』 日本自然保護協会 思索社 ¥1,680
『ふるさとを感じるあそび事典』 山田卓三編 農文協 ¥1,995

SDGsとの関連

4. 質の高い教育をみんなに

特記事項等

①実務経験のある教員
特になし

②ナンバリング
SCO1203

③オンライン授業の実施方法
Teamsによる教材提供、リアルタイム授業、小テスト、レポート等、また、ハイブリッド式授業を行う。

④その他の特記事項
特になし

学生へのメッセージ

遊びを通して、幼小連携・保小連携を理解しましょう。
作短日記の発表を通して、プレゼンテーション能力も磨きましょう。

研究室（訪問先等）

中央研究棟 2階 224 研究室
火・水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

aoki@sakushin-u.ac.jp

成績評価法

- ①試験 40% 期末試験で、授業内容全般の理解度を評価する。
- ②レポート 40% レポートで、授業内容の習得状況の評価する。
- ③小テスト等 10% 確認テスト及び授業態度を評価する。
- ④成果発表 10% 発表について評価する。